

国 語 問 題

注 意 事 項

1. 試験開始の指示があるまで問題冊子を開いてはいけません。
2. この問題冊子は 24 ページです。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
3. 問題冊子および国語解答用紙（マークシート）と国語記述解答用紙が配布された後、各解答用紙の所定欄に座席番号・氏名・フリガナを正確に記入し、国語解答用紙（マークシート）の座席番号欄には座席番号を正しくマークしてください。
4. 解答は必ず国語解答用紙（マークシート）の指定された箇所に正しくマークし、記述式問題の解答は国語記述解答用紙に記述してください。マーク箇所を誤った解答は無効です。

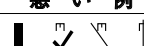
5. マーク解答欄記入上の注意

- (1) 解答は指定された解答欄にマークし、その他の部分には何も書かないでください。例えば、

20

 と表示のある問いに対して、③と解答する場合には、次の例のように**解答番号 20**の**解答欄**の③にマークしてください。

例

良い例	悪い例
	

解答 番号	解					答					欄				
	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
20															

- (2) 複数の解答がある場合も、同じ解答欄にマークしてください。ただし、指示された解答数より多くマークした場合は、その解答はすべて不正解となります。
- (3) 解答用紙へのマークはすべて H B のシャープペンシルまたは鉛筆で行い、訂正する場合にはプラスチック製消しゴムで丁寧によく消し、消しきずはきれいに取除いてください。
- (4) 解答用紙は絶対に汚さないでください。また折り曲げたり破ったりしないでください。
- (5) 解答欄の所定欄以外の余白部分は、何も記入しないでください。記入したり、汚したりすると解答用紙読み取り時の誤読の原因となり、採点できない場合があります。
6. 国語記述解答用紙については、注意事項をよく読み、指定された設問について解答しなさい。
7. 試験時間中に退場することはできません。
8. 問題冊子は必ず持ち帰ってください。
9. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。

I 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

自己紹介というものをするにあたって、最近少し悩んでいることがある。いや、「悩んでいる」は言い過ぎで、「もやもやしている」くらいだろうか。

何かというと、「先生」という敬称についてだ。大学の教員になったのがつい数年前のことという身であるために、単に慣れていないものもあるだろう。ただそれを抜きにしても、私はあまりほかのひとと、「先生」と「教えを受ける者」という関係をつくりたくはないと思っている。教員と学生の関係であっても、私が「先生」、**A** 師匠となつて、弟子たる学生に教えを授けるといったものではなく、ともに哲学という営みに携わる仲間であり、ただ私のほうがこの営みに携わってきた時間が長い分、いくらかの情報やノウハウを^(ア)チクセキしているからそれを共有している、くらいの関係でありたいのだ。もやもやしているのは、こういう考えの持ち主であるのに、「『先生』と呼ばないようにしてください」とうまく伝える方法がわからないためだ。

ひとりの学生が初めて私のもとを訪れる状況を考えてみよう。その学生は、おそらくたいいの場合は、まず私を「先生」と認識して、「先生」と呼び掛けるだろう。とすると、そこにはすでに教える者と教わる者の**X** が何らかの仕方で前提されているように思える。そうでなければ、初めからその呼び方はしなかったはずだ。

もちろんそれはその学生がおかしなことをしたわけではなく、現在の少なくとも日本の大学、あるいはもっと限定すると私が見てきた限りでの大学の環境においては、そうした**X** の存在がひとつの慣例となっているように思える。その学生は、単にその慣例に従って、私に普通に話しかけたにすぎない。

ただ、私は私で、その現在は慣例となっている**X** を、私とその学生のあいだでは、どうにか解体できないか、そこまで行かずとも、せめていくらか弱められないか、と考えている。そんななかで私は自己紹介をし、自分の名前や立場を明らかにする。さて、その次に私はどうすべきなのだろうか？

すぐ思いつくのは、その場で「ところで『先生』呼びはやめてください」と言うことだろう。それを聞けば、その学生はきっと今後「先生」呼びを控えることになるはずだ。何せ、「先生」の言うことには従うしかないのだから……。

言語行為（「発話行為」と呼ぶこともある）という考えかたがある。これはジョン・L・オースティンというイギリスの哲学者に由来するアイデアで、それによると、私たちが日常のコミュニケーションにおいて発言をするときには、ただ単に何か抽象的な仕方で言語表現をその場に提示しているのではなく、発言すること自体が、もっと積極的な力を伴った行為となっているとされる。

これは哲学者にとつてはザンシンな考えかただったのだが、それ以外のひとたちにとつては当たり前のことを言っているだけに聞こえるかもしれない。このアイデアが出てくる以前の哲学者たちは、言語を私たちの普段の活動から切り離された抽象的な記号体系と見なし、その記号体系が世界とどう関わっているのか、世界のありかたをどのように反映しているのか、といったことを考えていた。オースティンはそれに対し、「いや言語というのはそのような宙に浮いたものではなく、私たちの日々の活動のなかで、私たちの行為に結びついたものなのだ」と言ったのであり、要するにこれは、⁽¹⁾地上から離れがちだった哲学者たちの思考を、その足を掴んで大地へと引きずりおろそうという試みなのだった。

ともあれ、言語行為というアイデアにおいては、例えば「今夜は雨が降る」という文は単に抽象的な記号体系に属す表現ではなく、私たちが予測をしたり、賭けをしたり、報告をしたりするために使われる、私たちの具体的な活動と結びついたものとされる。空を覆いつつある雨雲を見て「今夜は雨が降る」と言ったなら、私はきつと天気の移り行きを予測しているのだろうし、「賭けをしよう。今夜は星空か雨か？」と問われて「今夜は雨が降る」と応じたのなら、私はきつと賭けをしているのだろう。^(ウ)セイド一〇〇%の天気予報マシーンから情報を得て「今夜は雨が降る」と言ったなら、私は予測をしているというより、これから起こるとわかっていることの報告をしているはずだ。言葉は人間の手を離れ、天空のアイデア界に住まう何かではない。それは、私たちの行為と結びつき、私たちの日々の生活のなかに息づいている。言語行為論の基本的な発想は、こうしたものだ。

さて、私が「『先生』呼びはやめてください」と学生に言ったとしたら、私はどういう行為をしていることになるのだろうか？ この言葉を見ると、それはすでに述べたように、お願いのために使われる表現であるように思える。言語行為論的には、「『先生』呼びはやめてください」という文には、⁽²⁾依頼という言語行為と慣習的に結びついた形式（「ください」）が備わっている、といった言い方がなされる。**B** 気になるのは、この状況で、私の行為は単純に依頼で終わるのかということだ。

一般的に、依頼というものについては、気が進まなければ断ることができる。私が恋人に「この手紙、ポストに出しておいてくれない？」と依頼をしても、それがわがままだと感じたなら恋人は「そのくらい自分でおやりよ」などと断るだろう。原稿依頼などもその手のもので、普通は依

頼された側にそれを実行するかどうかの裁量が認められているはずだ。

私から学生に「『先生』呼びはやめてください」と言うとき、私はこれよりも大きな強制力をこの学生に及ぼしているように思える。私は、自分がそう言いさえすれば相手が基本的に断れないということを自覚している。そして、おそらくはその力を発揮しようとしている。これは依頼とは別の行為だ。

言語行為論のなかでよく語られるテーマのひとつに、間接言語行為というものがある。ある言語行為をすることによって別の言語行為をもするときに、そのふたつめの言語行為のほうを「間接言語行為」⁽³⁾と呼ぶ。例えば私がカフェで「お砂糖ありますか？」と訊けば、これ自体は（疑問文を使っているという点に照らしても）質問という言語行為に該当することになるのだが、たいていの場合において、私の真の目的はそれのお店に砂糖があるかどうかの情報を得ることではなく、砂糖を自分のところに持ってきてもらおうということであるはずだ。私は、「お砂糖ありますか？」と言い、それによって直接的には質問をしているだけなのだが、間接的には依頼をしている。これが間接言語行為というゲンショウ⁽⁴⁾の例だ。

言語行為を包括的に研究した古典的業績として、ケント・バックとロバート・M・ハーニッシュの『言語コミュニケーションと言語行為』という著作がある。それによると、依頼という言語行為においては、話し手は（1）聞き手にあることをしてほしいという願望と（2）話し手がそうした願望を持っているということを理由に聞き手に実際にそれをさせようという意図のふたつを表明しているとされている。

私は例の学生に、「『先生』と呼ばれたくない」という願望を表明していたのだろうか？　そしてそうした願望を表明することで、「本人がそう望むなら……」と学生が呼び方を変えることを意図し、そうした意図があると表明したのだろうか？　学生が私の願望を叶えてあげたいと思ってくれた場合には叶えるようにするし、そうでなければそうしない、といったことを思い描いていたのだろうか？　その場合には、学生の側から「そちらはそう望むのだろうけれど、私は気が進まないの⁽⁴⁾」と断られる可能性も想定しているはずだ。おそらく私は、「『先生』呼びはやめてください」と言うときに、（それを望んだかはともかく）もつと強いことをしていることになるはずであって、**C** 私がしているのは依頼という言語行為だけではなさそうだ。

『言語コミュニケーションと言語行為』の同じページを眺めてみると、要求という言語行為についての説明に行き当たる。それによると、要求の場合には、話し手は（1）自分の発言が、自身が聞き手に対して持つ権威ゆえに、聞き手があることをするための十分な理由となるという信念と、（2）話し手がそうした発言をしたということを理由に聞き手に実際にそれをさせようという意図のふたつを表明しているとされる。

私がそれを望むか否かにかかわらず、私は例の学生が私のもとを訪れてきたときに、私たちのあいだに慣例に従って不均衡な権力関係があるということ、そしてその学生がそれを認識していることに気づいているはずだ。そして私は、その解消を望んでいて、だからこそまずは「先生」呼びをやめさせようとした。この権力関係から生まれる、一定の強制力とともに、『先生』呼びはやめてください」と言うとき、私は直接的には依頼をしていながら、間接的にはそれよりも強制力の強い、要求という言語行為をすることになってしまっているのではないだろうか？　そしてそれを見越しているからこそ、学生がその通りにするだろうと確信できるのではないか？

そうすると、奇妙なことになる。私は教える者と教わる者との不均衡な関係をできるだけ弱めたいのだった。

『先生』呼びはやめてください」は、まさにその不均衡な関係を梃子^{てこ}にして強制力を伴うようになりかねないのだった。⁽⁵⁾言っていることとやっていることがちぐはぐだ。

(三木那由他『言葉の展望台』より。出題にあたって、本文を一部改変した。)

*注　アイデア界　人間の住む不完全な「現実界」と対比される、永遠かつ完璧な理念が存在する理想の世界のこと

問一 傍線部(ア)・(イ)・(ウ)・(エ)のカタカナは漢字でどう書くか。解答例にならない、それぞれ①～⑩の中から正しい組み合わせとなる漢字を二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(ア) 1 (イ) 2 (ウ) 3 (エ) 4

(解答例) トクテイ

- ① 得
- ② 徳
- ③ 特
- ④ 匿
- ⑤ 督
- ⑥ 帝
- ⑦ 定
- ⑧ 底
- ⑨ 訂
- ⑩ 呈

答 ③ ⑦

(ア) チクセキ

- ① 蓄
- ② 築
- ③ 畜
- ④ 逐
- ⑤ 竹
- ⑥ 籍
- ⑦ 席
- ⑧ 積
- ⑨ 責
- ⑩ 関

(イ) ザンシン

- ① 惨
- ② 漸
- ③ 暫
- ④ 残
- ⑤ 斬
- ⑥ 新
- ⑦ 伸
- ⑧ 信
- ⑨ 真
- ⑩ 進

(ウ) セイド

- ① 政
- ② 制
- ③ 生
- ④ 精
- ⑤ 正
- ⑥ 渡
- ⑦ 土
- ⑧ 努
- ⑨ 戸
- ⑩ 度

(エ) ゲンシヨウ

- ① 原
- ② 現
- ③ 減
- ④ 限
- ⑤ 幻
- ⑥ 少
- ⑦ 章
- ⑧ 証
- ⑨ 象
- ⑩ 称

問二 空欄 ・ ・ ・ に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

5

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|--------|---|------|
| ① | A | つまり | B | そこで | C | 結局のところ | D | ところで |
| ② | A | あるいは | B | まさに | C | さしずめ | D | なお |
| ③ | A | または | B | ともかく | C | なかでも | D | ところが |
| ④ | A | 例えば | B | ほとんど | C | いかにも | D | まさしく |
| ⑤ | A | すなわち | B | ただ | C | やはり | D | しかし |

問三 空欄 に入る語句として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

6

- | | |
|---|---------|
| ① | 不適切な呼称 |
| ② | 不可避な対比 |
| ③ | 否定的な概念 |
| ④ | 非対称な関係 |
| ⑤ | 非人道的な認識 |

問四 傍線部(1)「地上から離れがちだった哲学者たちの思考を、その足を掴んで大地へと引きずりおろそうという試みなのだった」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

7

- ① 日常のコミュニケーションでの言語は、具体的な活動から切り離された記号の体系ではないから、私たちの日々の生活の中に息づいたものと理解すべきだということ
- ② 哲学者たちの言語コミュニケーションは強烈な説得力を持っているから、私たちの日常のコミュニケーションにおいてはその力を弱めなければならないということ
- ③ 日常生活での言葉は人々の手を離れた抽象的な記号体系であるから、世界のありかたを正確に反映するためには具体的な活動と結びつけておく必要があるということ
- ④ 哲学者たちの言語は天空のアイデア界を表現するものであるから、私たちが日常生活で言葉を使用する場合、それを具体的な記号として応用する必要があるということ

問五 傍線部(2)「依頼という言語行為」の特徴に関する説明として、最も適切なものはどれか。次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

8

- ① 依頼された側に対して、何らかの行為を命じるものである。
- ② 依頼された側に対して、気が進まない行為を行わせるものである。
- ③ 依頼された側に対して、断ることの裁量を与えるものではない。
- ④ 依頼された側に対して、必ずしも強制力を及ぼすものではない。
- ⑤ 依頼された側に対して、実行するかどうかを問うものではない。

問六 傍線部(3)「間接言語行為」とあるが、「お砂糖ありますか？」を例として、間接言語行為に当てはまらないものはどれか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

9

- ① テーブルに砂糖がないことを非難したい。
- ② カフェにある砂糖の原産地を調べてほしい。
- ③ カフェに砂糖があるか否かを確認したい。
- ④ カフェでのスタッフ教育を確認したい。
- ⑤ 砂糖を使いたいので持ってきてほしい。

著作物の2次利用の関係で問題文を掲載しておりません。

著作物の2次利用の関係で問題文を掲載しておりません。

著作物の2次利用の関係で問題文を掲載しておりません。

著作物の2次利用の関係で問題文を掲載しておりません。

(原田マハ「道 La Strada」『常設展示室』より)

問一 傍線部(ア)・(イ)・(ウ)のカタカナは漢字でどう書くか。解答例にならない、それぞれ①～⑩の中から正しい組み合わせとなる漢字を二つ選び、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(ア) 11

(イ) 12

(ウ) 13

(解答例) トクテイ

- ① 得
- ② 徳
- ③ 特
- ④ 匿
- ⑤ 督
- ⑥ 帝
- ⑦ 定
- ⑧ 底
- ⑨ 訂
- ⑩ 呈

答 ③ ⑦

(ア) ホソウ

- ① 舗
- ② 歩
- ③ 補
- ④ 保
- ⑤ 帆
- ⑥ 争
- ⑦ 想
- ⑧ 層
- ⑨ 走
- ⑩ 装

(イ) ノウコウ

- ① 能
- ② 悩
- ③ 濃
- ④ 納
- ⑤ 農
- ⑥ 考
- ⑦ 耕
- ⑧ 厚
- ⑨ 好
- ⑩ 稿

(ウ) コンキユウ

- ① 近
- ② 今
- ③ 婚
- ④ 困
- ⑤ 根
- ⑥ 急
- ⑦ 窮
- ⑧ 求
- ⑨ 旧
- ⑩ 究

問二 傍線部(a)・(b)の本文中での意味として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(a)
14

(b)
15

(a) ありありと

- ① 表情豊かに生き生きと
- ② とても情感にあふれしんみりと
- ③ あたかも目の前にあるかのように
- ④ なんとなく外に現れたかのように
- ⑤ 胸の内から込み上げてきたかのように

(b) たおやかな

- ① 気高くうつくしい
- ② 上品でものしずかな
- ③ 柔らかでふくらとした
- ④ ほっそりとしてしなやかな
- ⑤ ずっしりとして重みのある

問三 傍線部①「四十年近く止まったままだった時計が、少しずつ少しずつ動き始める」とあるが、それはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

- ① 翠の目の前に広がるなつかしい景色や匂いによって、遠い過去の記憶のイメージと現実世界の景色とが重なり始めたということ
- ② 初夏のすがすがしい風が翠の頬をなでていくことで翠の記憶がよみがえり、この場所こそが自分の故郷だと確信できたということ
- ③ 翠が四十年近く目を背けていた過去に対して、正面からしっかりと向き合った上で受け入れることを決心したということ
- ④ 青々と波打つ水田が広がる景色のなかで、夏の初めの清々しい匂いがひろがっていることに感動して涙が込み上げてきたということ

問四 傍線部②「翠は息をのんだ」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

- ① 戸のすきまから顔を出した娘の様子がとても痛ましく、兄家族が幸せな人生を送っていないことが明白であったから
- ② 目を真っ赤に泣き腫らした少女の姿に、泣きじゃくりながら兄と別れた四十年前の自分の姿を重ねてしまったから
- ③ 思春期の少女が家で毎日泣いているという事実に対して、家庭での酷い虐待の可能性を想像してしまったから
- ④ 久しぶりに兄に会える期待に胸をふくらませていたが、その期待に反して泣き腫らした目をした少女が現れたから

問五 傍線部(3)「ふっとため息をこぼして視線を足もとに落とした」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

18

- ① 亡くなる間際の明人から言われたとおり、応募した絵を描いたのが明人であることを気づいてくれた人が本当にいて驚いたから
- ② 絵を応募したことで翠と久しぶりに会えることを明人は期待していたので、二人が対面できなかった現実が悲しく感じられたから
- ③ わざわざ遠くから明人に会いに来てくれた客人に対して、相手の目をしっかりと見据えて死亡の事実を告げることのためだったから
- ④ 明人に頼まれてから一ヶ月も放置せずにすぐ応募していれば兄妹が対面できたかもしれない可能性に、後ろめたさがあったから

問六 傍線部(4)「そのあとしばらく、明人にかすかな活力がよみがえった」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の

①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

19

- ① 描きかけではあるが、作品を賞に出したことによって、審査員である翠に認められて受賞することができるという期待をもつことができたから
- ② 描きかけではあるが、作品を賞に出したことによって、大作を描き続ける必要がなくなり、体力と気力に余裕を持つことができるようになったから
- ③ 描きかけではあるが、作品を賞に出したことによって、明人の存在を審査員である翠に伝えることができるという期待をもつことができたから
- ④ 描きかけではあるが、作品を賞に出したことによって、残りの時間を娘とともに絵を描く時間に充てることができる、つかの間のあたたかい日々を過ごすことができたから

問七 傍線部(5)「翠の頬を流れる涙が、その答えだった」とあるが、なぜ翠は涙を流したのか。その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

20

- ① 最後に描いた絵が入賞したにもかかわらず、それを明人は知ることができなかったことが悔やまれてならなかったから
- ② 明人が翠を信頼して、自分の大切なひとり娘である彩の将来を託してくれたということがわかって嬉しかったから
- ③ 明人が結婚していたことも知らず、また娘の彩が誕生していた連絡さえも翠になかったことが、ただ悲しかったから
- ④ 死に際に明人が彩に告白した言葉を聞いて、明人が翠のことを忘れずにずっと思い続けていたことに感動したから

問八 傍線部(6)「だからこそその部分は輝いていた」とあるが、なぜ翠には輝いて見えたのか。その理由として最も適切なものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

21

- ① 死にゆく人間が描いた大部分と、これからも生きてゆく人間が描いた箇所が対照的で、生命力の差がはっきりしていたから
- ② 最後まで作品を描き上げて完成させたかった父の遺志を娘が継いで、作品に手を加えたという事実に関心したから
- ③ 下手な塗り方がむしろ生き生きと輝いているように見え、絵全体の活力がその一点に集まっているかのように感じられたから
- ④ 絵の上手な人がわざと下手に描くことはかなり高度な表現技法であり、画家の実力がもつとも分かりやすい箇所であったから

問九 本文の内容と一致しないものを、次の①～④の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 翠は貧しく不幸だった家族との記憶を長く封印していたが、明人の応募を期に過去と向き合うことを決心した。
- ② 明人と翠は対面することができなかったが、翠の訪問があと一ヶ月早ければ最後に会うことができたかもしれない。
- ③ 孤児という恵まれない境遇から画壇の成功者となった妹に対して、兄は同じ分野で成功を掴むことなく死んでいった。
- ④ 明人は妹の翠が芸術大賞の審査員であることを知っており、その賞に応募するために絵を描き続けていた。

Ⅲ 以下のそれぞれの設問に答えなさい。

問一 次の(1)・(2)の四字熟語の空欄に入る漢字を、解答例にならない、それぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(1)

(2)

(解答例) 三 温

- ① 漢
- ② 乾
- ③ 甘
- ④ 寒
- ⑤ 閑

答 ④

(1) 呉越同

- ① 終
- ② 舟
- ③ 集
- ④ 秀
- ⑤ 周

(2) 果応報

- ① 引
- ② 院
- ③ 員
- ④ 印
- ⑤ 因

問二 次の(1)・(2)に示した熟語の対義語を完成するために、解答例にならない、それぞれ①～⑧の中から正しい組み合わせとなるものを二つ選び、
 順番は無視して、同一解答欄にその番号を両方ともマークしなさい。

(解答例) 拡大 ↑ ↓ ☐ ☐

- ① 小
- ② 尺
- ③ 縮
- ④ 弱
- ⑤ 減
- ⑥ 贈
- ⑦ 刷
- ⑧ 少

答 ① ③

(1) 釈放 ↑ ↓ ☐ ☐

- ① 束
- ② 制
- ③ 回
- ④ 拘
- ⑤ 限
- ⑥ 跡
- ⑦ 追
- ⑧ 収

(2) 模倣 ↑ ↓ ☐ ☐

- ① 現
- ② 消
- ③ 用
- ④ 造
- ⑤ 去
- ⑥ 代
- ⑦ 像
- ⑧ 創

(1)

(2)

問三 次の(1)・(2)に示したことわざの意味として最も適切なものを、それぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(1)

27

(2)

28

(1) 蛙かえるの面に水

- ① 不運や不幸が度重なること
- ② どんな仕打ちにも平気でいること
- ③ 突然起こったことに驚き動揺すること
- ④ どんな状況にも立ち向かっていくこと
- ⑤ 毎日のように起こっており奇異ではないこと

(2) 牛にひかれて善光寺参り

- ① 巡礼をすること、望みを叶かなえること
- ② 意外なところで、昔の恨みを晴らすこと
- ③ 偶然や他人の誘いによって、散々な目に遭うこと
- ④ 人の意見や忠告を聞き流して、何とも思わないこと
- ⑤ 偶然や他人の誘いによって、良いほうに導かれること

問四 次の(1)・(2)の故事成語にもっとも近い意味のことわざを、【選択肢】①～⑩の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

(1)

29

(2)

30

(1) 塞翁が馬

(2) 他山の石

【選択肢】

- ① 蓼食^{たで}う虫も好き好^すき好^ずき
- ② 木を見て森を見ず
- ③ 弘法筆^{こうぼう}を選ばず
- ④ 捕らぬ狸^{たぬき}の皮算用
- ⑤ 人の振り見て我が振り直せ
- ⑥ 隣の芝は青い
- ⑦ 禍福は糾^{あやな}える縄の如し
- ⑧ 上手の手から水が漏れる
- ⑨ 能ある鷹^{たか}は爪を隠す
- ⑩ 猫に小判

問五 次の(1)・(2)の傍線部と同じ用法であるものを、それぞれ①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

(1)

31

(2)

32

(1) 定時になつたら、帰ります。

① 駅に着いたら、電話してください。

② 朝、窓を開けたら、地面が濡れていた。

③ 明日、天気が良かったら、海に行きたい。

④ 強くボタンを押したら、スイッチが入った。

⑤ 目が悪くなったら、コンタクトにする。

(2) 明日は寒さが解消されて、全国的に春らしい一日になるそうだと。

① 一昨日、バンクシーの新作が見つかったらしい。

② 帰る頃は暑いらしいが、朝は肌寒いそうだと。

③ 私は今まで病氣らしい病氣をしたことがない。

④ 熱があるときは、スポーツドリンクを飲むといいらしい。

⑤ 何かいいことがあったらしいから、話を聞いてみよう。